
タンゴを君と共に

西崎想

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タンゴを君と共に

【Nコード】

N3902Z

【作者名】

西崎想

【あらすじ】

夢見病の謎に迫ろうと、さいか雑賀 ゆづり夕理は病気を患っている、少年翔真を見舞う。

夢見病（前書き）

こんにちは。西崎想と言います。

いろいろな人から、読んでほしいので、ジャンルに関係なく見ていってください。面白いものを書きたいです。

よろしく願います。

夢見病

なんか、暇だなあ。

私はそう思っていた。

そして、この、(ボランティア)に身を投じようとしている。

私の選んだのは、医療。

前に、新聞で、「夢見病」というものが、流行っているというのを、読んだことがある。

夢見病を引き起こしている、原因はまだよくは解っていない。

「まあ、今の世は、何でもありだからなあ」

そういう風に思っていた。

堺女子医大。

そこに、まさに、夢見病を患っている患者を訪ねた。

コンコン。

「どつぞど

そう言われて、私は病室の扉を開けた。

「失礼します」

「貴方は？」

「私は、ボランティアで来た者です。名前は、さいか雑賀 ゆづり夕理です」
私はそう言って、頭を下げた。

「私は、橘 翔真の母です」

「その……翔真君の病状は？」

ベットに横たわっている、少年。まだ、幼さの残る、甘い、顔。結構綺麗な寝顔をしているな。

「翔真は……一年前から……眠っています」

「そうですか……私に出来ることなら何でもします。おっしやっ
てください」

「ありがとう、雑賀さん」

そう言われて、私は部屋を出た。

外の喫茶店。

そこで、私はコーヒーを飲みながら、夢見病を調べた。

なになに、

夢に堕ちたまま目覚めないところから、こつ名付けられた。

……か、

そうか、この病気は、ずつつと目覚めないのか。

私は、名前の由来に、なんとなく納得していた。

それを治す方法は……、

突然、目覚めたり、一生、覚めなかったり……

治療法は、今のところ、わからない？

「えー？」

私は、思わず、喫茶店のテラスで声を出した。

あつと、……まずいまずい。

これは、意外に難病かも。
そうだな……、

図書館へ行こう。

そして、(図書館)に着いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3902z/>

タンゴを君と共に

2011年12月13日08時53分発行